

令和5年度 第4回 東海村スポーツ推進計画推進委員会会議録

1	開催日時	令和5年10月27日(金) 18時30分から20時30分まで
2	場所	東海村歴史と未来の交流館 活動室2
3	出席者 (敬称略)	<委員> 塚原美光, 黒羽根史朗, 小林伸郎, 石丸美代子, 小泉親彦, 竹下浩一, 松坂晃, 高橋和将, 橋本礼子, 久保田泰世 <事務局> 河西徹雄(教育部長), 深見孝志(生涯学習課長), 川崎彰利(生涯学習課主任), 関嘉人(生涯学習課主事補), 佐藤大樹(東海村文化・スポーツ振興財団スポーツ振興係係長)
4	欠席者 (敬称略)	吉沼玲子, 田畑由紀子, 小川満, 杉山章子, 富岡孝明
5	公開又は 非公開の別	公開
6	非公開の理由	—
7	協議・説明事項	・第2期東海村スポーツ推進計画(案)について (1) スポーツの範囲 (2) 数値目標 (3) 推進体制
8	配布資料	資料1…第2期東海村スポーツ推進計画(案)※抜粋 参考1…第3回スポーツフェスタTOKAI2023開催報告書
9	発言内容	・第2期東海村スポーツ推進計画(案)について (1) スポーツの範囲について 委員) eスポーツについて, 高齢者はアルファベットや横文字に苦手意識を持つ傾向がある。健康づくりや介護予防をはじめ, 高齢者でも楽しめることをPRした方がよい。 委員) 指先を細かく動かしてプレーするのは脳の働きに良いとされている。「身体全体を動かすことがスポーツ」という概念を取り除いても良いと感じている。

	事務局) 先日開催された村総合スポーツ大会において、歴史と未来の交流館でeスポーツ競技が実施された。モニター越しではあるが、プレーを観戦・応援している姿は、従来のスポーツと変わらないと感じた。県内では、子どもが高齢者と交流するツールとしても活用されている。 委員) 茨城国体以降の国体でもeスポーツ競技は開催されているのか。 事務局) 茨城国体で初めてeスポーツ競技を都道府県対抗形式で実施して以来、後催県でも継続して取り入れている。なお、国体におけるeスポーツ競技は本競技ではなく、開催県における国体開催の機運醸成を目的として、スポーツ文化や開催県の郷土文化等をテーマとして実施する文化プログラムとして位置づけられている。 委員) eスポーツについて、「事業を推進しつつ…」と記載されているが、行政の事業としてeスポーツを推進するという解釈でよろしいか。 事務局) 行政が直接eスポーツに関する事業を実施するかは未定である。今年度からバーチャルeスポーツ連盟が村スポーツ協会に加盟して事業を実施しており、スポーツフェスタでもブース出展というかたちで連携・協力している。 委員) eスポーツには様々な効果があり、将来的な技術革新を想定すると、今後さらに私たちの生活に身近なものになってくると感じている。スポーツ推進計画における「運動・スポーツの範囲」に含めることも一考の余地がある。 委員) 運動・スポーツの目的には「心の健康」も含まれると思っている。オンラインであっても、社会とのつながりという意味ではeスポーツも同様の効果が期待できるのではないか。スマホやタブレットの画面を見ながらヨガ等の運動を行うことは、既に一般的になりつつある。 事務局) eスポーツにはメリットがある反面、スクリーンタイムと体力低下の相関関係等のデメリットも報告されている。また、「eスポーツ」という名目で、特に児童生徒がゲーム三昧となっ
--	--

	てしまう状況や、第1期計画から継続している運動あそび（外遊び）を推進する方針と矛盾することも避けたいと考えている。 委員）スクリーンタイムが児童生徒に与えるマイナスの影響については、研究成果として報告されている。また、「運動・スポーツ実施率」や「運動・スポーツへの関心」といったアンケートを行う場合、eスポーツを運動・スポーツに含めるか否かによって結果が大きく変動することが想定されるため、今の段階ではeスポーツと全身運動を伴う運動・スポーツは一線を引いておいた方が良いのではないかと考えている。指先の動きは身体活動と言えるかもしれないが、体力の維持向上にどこまで寄与するかは確認できていない。広義の（精神面も含めた）健康づくりや気分転換まで含めると何でも運動・スポーツに該当することになってしまう。 委員）「eスポーツを運動・スポーツに含める」とした場合でも、コンピューターゲームの中で運動・スポーツに含めるeスポーツの条件整理は必要だと感じている。 委員）今後、バーチャルeスポーツ連盟の方からレクチャーを受け、eスポーツへの理解を深めることも必要かもしれない。 委員）「事業を推進しつつ」の文言は、「村は運動・スポーツとしてのeスポーツを推進する」と宣言している印象を受けるため、eスポーツを運動・スポーツに含めるか否かの位置付けは明確にしておく必要がある。 委員）運動・スポーツの範囲について、「計画的・意図的に実施する継続性のある…」の記載について、計画（案）では自然発生的な子どもの運動遊びは運動・スポーツの範囲には含まれないことになる。子どもの運動遊びや日常生活に織り込まれている様々な体験活動は、体力の維持向上や多くことを学ぶきっかけになるものである。それは実施率のような指標では測り得ないが、子どもを取り巻く運動・スポーツの環境として重要な要素の一つだと考える。 事務局）おっしゃる通りである。掲載文を推敲している中で抜けてしまったものと思われるため、御意見を反映するかたち
--	---

	で修正させていただく。 委員) 公園や児童館のように子どもたちが自由に遊べる環境(場所・機会)を整備していけるとよい。 (2) 数値目標について 委員) 関連指標についても計画期間終了時に評価を行うのか。 事務局) 関連指標を評価することは想定しておらず、計画の推進状況を確認するために活用する。 委員) 計画で高い目標を掲げても、コスト(予算・人員)を投じなければ絵に描いた餅になりかねない。村のスポーツ施設は高い稼働率となっているため、運動・スポーツ実施率を「場所」で改善しようと思えば、受け皿の増設が必須となる。また、人員についても同様であり、推進しようとするのであれば、相応の人的体制を整備する必要がある。 事務局) 第1期計画時から指標名称を変更する理由として、第1指標と第2指標の内容や役割が区別できる名称を設定すべきかと考え、提案した。 委員) 第2指標は、「目標指標」を構成する要素を測る指標という意味で、「要素指標」という言葉ではどうか。 (3) 推進体制について 委員) 本委員会と自治会やスポーツ協会、スポーツ少年団等、計画機関に位置付けられる団体と実行機関に位置付けられる団体が顔を合わせて、計画を推進する上でのミッション・ビジョン、課題等を共有するための場を設けていきたい。 委員) 一堂に会するのは難しいかもしれないので、各団体と個別に実施するというかたちでもよい。本計画を推進するための組織として連携・協働していけるとよい。 委員) 第2期計画は、実行機関の各団体が実際に活動する上で指針として活用していただけるものとしたい。 委員) 本計画の推進体制を、より実効性のあるものとするため、スマイル東海を実行機関の核として位置づけてはどうか。
--	--

	委員) スマイル東海, スポーツ協会, スポーツ少年団が中心となり, 周囲にその他のスポーツ団体が配置されるかたちが良いと思う。 委員) 推進体制の組織化を目的とした関係団体間の連携・協働は第2期計画の主要テーマの一つであり, 計画期間を通して施策・事業として取り組み具体化していけるとよい。
10 今後の予定	今回は, 11月中旬頃に開催予定。